

事実に基づかない不当処分を撤回し、安心して働ける職場を実現する声明

いま、私たちが働く職場は『事実誤認と十分な状況把握がされない中で、一方的な懲戒処分と他職場への異動が強行される』という、危機的状況にある。大宮運転区で発生した事象に対して会社は『大宮支社の皆さんへ』を発出して「社員が業務に就くことを拒否し、管理者の承認を受けることなく、無断で帰宅する事象が発生しました」として「会社として厳正に対処せざるを得ない」としている。しかし事実と異なったり、隠されている事が多くあるため、我々は真実を明らかにして全職場での議論を要請する。

経過として、当人は前日急遽「休日出勤」を要請され、職場も大変な状況なのだろうから協力しようと承諾する。しかし当日出勤すると、これまでは休日出勤を要請する前に乗務させていた変形日勤が数名いたことから「休日出勤なのに変形日勤がいるのはおかしい」「それなら休日出勤の意味がありませんので帰ります」と会社に伝えロッカーに向かう。ロッカーには管理者のほかには区長もいたそうだが、変形日勤がいる事に対する合理的な説明はなく、誰からも「帰るな」と通告もされていない。そして現認も一切されていない。逆に管理者からは、帰ることに対して「分かった」と言われ「代わりの人を探すことになる」「嫌な思いをさせてごめんね」と誰がどう見ても非は会社にあり、帰ることを認めたと捉えられる状況の中で帰宅している。それ以降も、当人への聞き取りは3日後まで行われず、その経過も合わない中で一致させる場もつくられることなく、懲戒処分と他職場への異動が強行された。これは重大な事実誤認であり、会社によってつくられた「無断で帰宅した」というストーリーの中で、十分な状況把握もされず重い処分が一方的に行われたものであり、絶対に許すことはできない。

これまでも宇都宮運輸区では、工作上重大なミスが発生させてしまった社員が、本人も猛省し会社と共に乗務復帰に向けて取り組んでいる中で、犯したミスとは関係がないことで必要以上に叱責され長期に及ぶ懲罰的日勤教育により、自殺を考え医療保護入院にまで追い込まれるパワハラが発生している。また、新たなジョブローテーション施策では、働くものの希望を一切聞かず異動を強行するあまり、異動のたびに精神的に病んでしまう人や簡易苦情処理申請が多発するなど、まるで「会社のいう事は黙って聞け」と言わんばかりの強権的な事象が多発している。その一方で、小金井運転区では複数の管理者が、JR 東労組脱退を意図した不適切な事象を行っていたことも明らかになっている。まさに私たちが働く JR 東日本は危機的状況であり、このままでは世間的にも批判され、社員にも見放されるような「ブラック企業」になってしまう。

全組合員のみなさん、そして組合未加入者のみなさん！

いま本当に職場は働きやすいですか。会社がいう「ボトムアップ」つまり言いたいことが管理者等に言えていますか。職場は人がいない中で多くの課題が付与され、休日也十分休めない状態が続いているという悲鳴の聲が大宮地本へ多く届いている。そして、このままでは会社の言う事に従わなければ処分や希望ではない箇所への異動が強行されるのではという不安感と、ミスをすればパワハラで追い込まれるのではないかという恐怖心で、日々の仕事は「働きがい」どころか、まるで奴隷のようだと言われている。いま、この状況を打開できるのは JR 東労組しかない。なぜなら、これらの事象は 18 春闘の間違いと大敗北で多くの組合員が脱退し、JR 東労組の力が弱くなってしまった中で発生しているからだ。強大な力を持つ会社には、職場の不満や不安を解消するには個人や社友会では不可能なことは、この間の事象を見れば明らかである。もう一度、安全で安心して希望をもって働ける職場確立に向けて、JR 東労組への結集を全組合員で呼びかけよう！そして未加入者のみなさん、私たちと共に声をあげ、職場を良いものへ創り変えるために共に奮闘しよう！